

ダム等管理フォローアップ

意見を受けての報告書修正対応表

【加古川大堰】

平成30年3月

姫路河川国道事務所

【加古川大堰】

1. 事業の概要

特になし

2. 洪水調節

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
2.4 洪水時の管理計画 本編 P.2-10～11 概要版P.12	・平成9年度から平成10年度にかけて、洪水時の事前放流開始流入量が250m ³ /sから330m ³ /sに変更となっており、根拠資料も併せて、提示する必要がある。	・平常時の水位調整の方式を定開度方式から定水位方式に変更することで、330m ³ /sでも越流時上限水位を超えないことを確認した。(本編P.2-10～11)	・今後も定期報告書などの資料作成において考え方を記載するよう努める。
2.5 洪水時の対応状況 本編 P.2-19～20 概要版P.14,19	・洪水時の放流量の不連続及び水位の上下変化と流量(流入量、堰放流量)の関係が分かりづらいので、分かりやすいよう工夫して作成すること。	・洪水初期及び洪水後期において、放流量が正しく計算されていないが、放流量の計算式の問題である。(本編P.2-35、概要版P.14,19)	・洪水初期および洪水後期において、放流量が正しく計算されていないが、放流量の計算式の問題であることが判明しており、放流量データを必要としないゲート全開への操作起動後、全開動作中(フリーフローになったタイミングまで)に生じる問題なので操作上の問題はない。今後洪水時のデータを蓄積したのち、放流の計算方法に関する改善内容を確定させて堰コンに組み込む予定である。

3. 利水補給

特になし

4. 堆砂

特になし

5. 水質

特になし

6. 生物

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
6.5 環境保全対策の効果の検証 本編 P.6-243、244 概要版P.81	・魚道遡上調査において、魚道を利用する魚類相の変化が明確となるように整理すること。	・魚類相の変化が分かるよう、科別に整理し、平成24年度から平成28年度は、各年度で15～28種のコイ科を中心とする魚類や甲殻類が魚道内を利用しており、種構成に大きな変化はないとの結果であった。(本編P.6-243、244、概要版P.81)	・今後も、魚道遡上調査を継続し、魚類相の変化が明確となるように整理する。

7. 堰と周辺地域の関わり

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
7.6 河川水辺の国勢調査(河川空間利用実態調査)結果 本編 P.7-39~44 概要版P.98	・川の通信簿の点検項目は、施設毎の特性を踏まえた項目設定ができないのか。	—	・今後、施設の特性を踏まえ、川の通信簿以外の評価項目を参考に検討する。